

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念にある、「人に寄り添い地域を支え未来をつくる」ことができるように、グループホームとして「家庭的で思いやりのある介護サービスの提供」を掲げている。この目標を職員みんなが理解し実施していくためには意識の改善が必要である。	家庭的な生活を実現していくために、生活歴から趣味などを探り生きがいのある生活の場になることができるようにしていく。	職員一人ひとりが意識を高め目標を達成していくために、法人理念とグループホームの目標をみんなが見ることができる場所に掲示するとともに、前期・後期目標を立て目標達成出来るように、各自の目標も休憩室などに掲示し共有し取り組んでいくことが出来るようにしていく。	12ヶ月
2	2	他事業所や地域との交流が現状コロナ禍の中で図りにくい状況となっているが、他事業所からの情報収集行なったり地域への行事等への参加も望ましいが出来てない現状となっており改善を図っていく必要がある。	他事業所の方とこまめな連絡を取り合いお互いの情報を発信していく。また、地域へもグループホームの状況を発信するとともに地域の行事などの情報収集を行ない参加等の検討を行なっていく。	他事業所の方と積極的に連絡を取り合いながら集まる機会があれば参加していき、情報を得るとともにコロナ禍が落ち着いたら地域行事への参加計画を立てていくとともに、地域の方にもグループホームでの行事案内を行なっていきお互いに交流が図れるようにしていく。	12ヶ月
3	3	グループホームは少人数での勤務であり、夜間においては一人勤務となっている。急な災害時に備えて対応できるように繰り返しの訓練が必修であるが、コロナ禍でできていなかったこともあり今後隣接の特養や地域の方とも協力しながら行なっていく必要がある。	急な災害に対応できるように、隣接の特養との合同訓練の実施や単独での訓練を繰り返し訓練を行なっていく。	隣接の特養と合同での訓練や地域の方にも協力をいただくとともに、ハザードマップの確認を行ない災害時に焦らずに避難等ができるように繰り返し訓練を行なっていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。